

TackSphere

後世につながる感謝と革新への挑戦

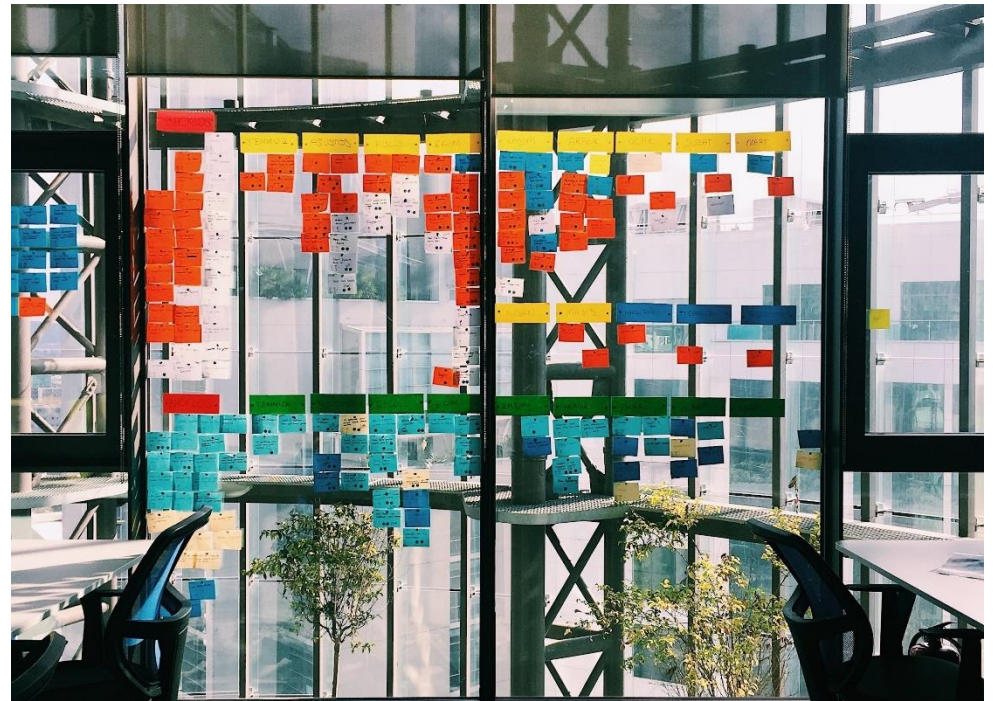
タクスフィア株式会社 事業内容のご紹介

代表取締役 今仁武臣
Ph.D, MBA



目次

- 会社概要
- 主なサービス内容
- 最近のプロジェクト事例
- 目指すべき姿



会社概要

社名:タクスフィア株式会社 <https://tacksphere.com/>

代表:今仁 武臣 (Imani Takeomi)

住所:東京都渋谷区渋谷2-9-15宮益坂ビルディング609

電話番号:03-5877-3989 (代表)

事業内容:

- 製品ライフサイクル管理(PLM)/3次元CAD 導入支援サービス
- プロジェクト企画支援サービス(国内向け、海外向け)
- プロジェクト実行支援サービス(国内、海外)
- プロジェクト管理研修サービス(日本語、英語)

取引銀行:

- 三井住友銀行 渋谷駅前支店
GMOあおぞらネット銀行 法人第二営業部

登録番号:T7011001158588

代表者のご紹介

代表者: 今仁 武臣 (Imani Takeomi)

- 外資系PLM企業、国内大手製造業や社会福祉系のNPO等で多くのプロジェクトマネジメント業務とプロジェクトマネージャーの人材育成に従事。
- 20年以上のグローバルDX、IoT/AI/ARビジネスの実績(米国システムベンダ、国内製造事業会社の双方)
- 100プロジェクト事例・技術面(エンジニアリング/コンサルタント/アーキテクト)とプロジェクトマネジメント面の双方で実施
- 15年以上のプロジェクトマネジメント、5年以上のピープルマネジメント(PMO組織、デリバリ組織部門長)の実績
- 15年以上のITプログラミング(Java、JavaScript、SQL、C、C++ 等)およびデータ・統計分析基礎
- 博士(システムエンジニアリング学)、経営学修士(英国ケンブリッジ大学Judge Business School)、理学修士(大阪大学大学院理学研究科、物理学専攻)、日本経済大学/大学院 教員、慶応義塾大学大学院 / 北海道大学大学院情報科学研究科 非常勤講師、社会福祉士

製品ライフサイクル管理(PLM)/3次元CADに関する主な経歴

(2017年～2023年)

主要業務

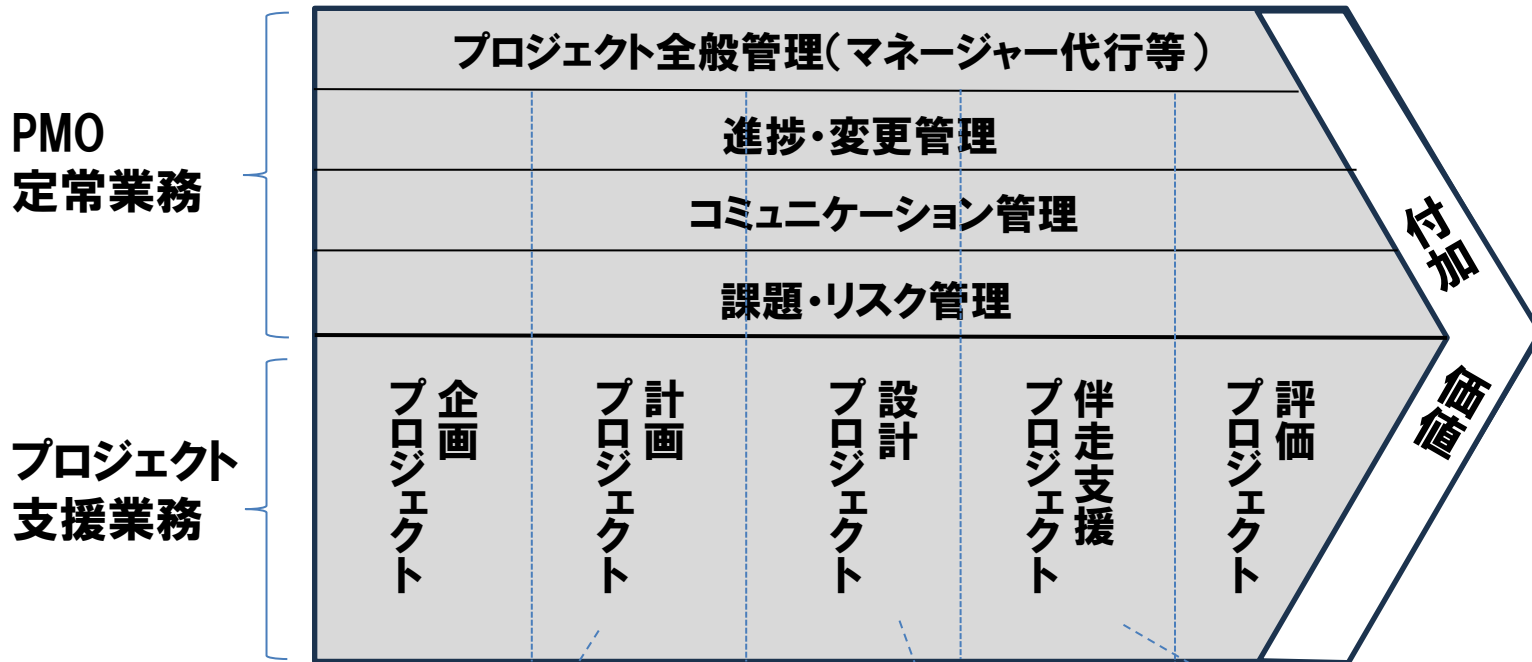
- 国内製造業事業会社を顧客としたDX、IoT/AIビジネスの顧客プロジェクト管理グループの組織マネージャ。人材、損益、契約、品質の管理。
- PLM・3次元CADビジネスの顧客プロジェクトグループの組織マネージャ。人材、損益、契約、品質の管理。

主なプログラム・プロジェクト実績

- 大手自動車メーカー向け、機械学習/IoTプラットフォームを使用した、工場設備の故障予兆PoCを指揮。数十年来の深刻な設備故障の、予兆パラメータ独立変数をDecision Tree法などを使用して特定。
- スマートシティ・スマートオフィス(大手携帯電話キャリア会社)に関するサービスの受注、実行指揮、知識共有。
- M&Aに伴うグローバルDXプログラム。アフターサービス領域のMVP(Minimum Viable Product)ワークショップ、実装、データ移行、課題管理。
- DX/PLM/ERPに関するサービスの契約管理、受注、実行指揮、知識共有。
- 年間売り上げ規模10億円、利益率50%以上を継続して達成。

新サービスパッケージの横展開(アジア圏、日本)、製造業製品設計部における「設計ナビゲーション」及び「3次元自動設計システム」の企画、実行(2003年より)

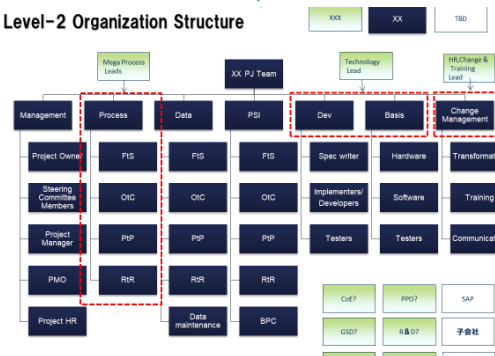
プロジェクト企画・設計・実行支援サービス



イメージ



Level-2 Organization Structure



出社/リモート/海外出張等に柔軟に対応可能です

プロジェクトマネジメント研修サービス

最大16 クラス

ケーススタディ

ミニプロジェクト

アジャイル

日英対応

#	Title	講義	ワークショップ
1	PM統合管理	プロジェクト管理の全体像, 統合マネジメント	
2	PMBOK知識エリア	スコープマネジメント	
3		スケジュールマネジメント	
4		コストマネジメント	
5		ステークホルダー, コミュニケーションマネジメント	
6		リスクマネジメント	ケーススタディ
7		リソース, 調達マネジメント	
8		品質マネジメント	
9		PMBOKプロセス	実行, モニタリングおよびコントロール, 終結
10	ミニプロジェクト1	ミニプロジェクト	
11	ミニプロジェクト2	ミニプロジェクト	
12	ミニプロジェクト3	ミニプロジェクト	
13	ミニプロジェクト4	チームプレゼンテーション作成	
14	ミニプロジェクト5	チームプレゼンテーション	
15	アジャイルPM	アジャイルプロジェクトマネジメント	
16	最終確認	確認テスト	

ウォーターフォールとアジャイルの混在等、柔軟に対応可能です

最近の事業実績(2024年)

大手電機機器メーカー(サイバーセキュリティSaaS開発) 2023年7月～2024年6月
役割 グローバルPMOリード メンバー数 約30名(米国、日本)

実施内容

新規SaaS事業の営業推進PMO支援、および米国セキュリティシステムベンダーとのOEM
開発PM支援

品質、スケジュール、課題/リスク管理に関わるファシリテーションや意思決定支援を主に担当

成果

米国、日本の双方のステークホルダー管理を通じ、要件定義、詳細設計およびステアリングコミッティ決定をオンタイムで終了。

独自の数理モデルに基づく、ハイブリッドアジャイルアプローチを適用。プロジェクト状況に応じた、品質チェックリスト、WBSテンプレートを使用

Notion、Figma、Microsoft Teamsを通じたグローバルコミュニケーションの効率化・ルール化も達成

主なアウトプット(プロジェクト管理成果物)

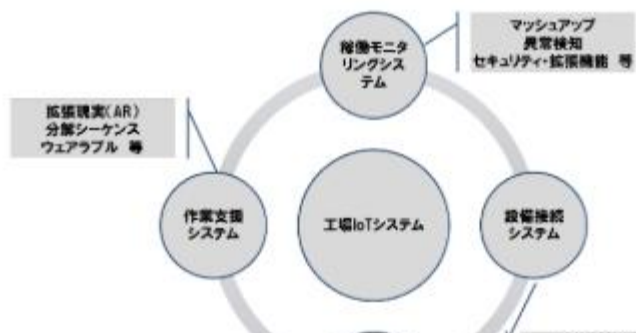
- **プロジェクト企画書(プロジェクト憲章)**
 - **プロジェクト管理計画書 (顧客企業との役割分担)**
 - **プロジェクトスケジュール**
 - **進捗報告書**
 - **課題・リスク管理帳票**
 - **要件定義書**
 - **テスト計画書**
 - **プロジェクト終了報告書**
- プロジェクトシステムを使用し、重複した中間生成物を少なくしながら、費用対効果を挙げていく活動を提案しています
- **新規事業・サービス計画(プライシング、費用計画等を含む)**
 - **ベンダー選定計画**
 - **カスタマーサクセス計画(SaaS事業の場合)**

当社サービスの主な特徴

プロジェクトマネジメント/システムズエンジニアリング (Ph.D/PMP)、物理学(MSc)、ジェネラルマネジメント(ケンブリッジ大MBA、経営学)の学術的基盤を有効活用

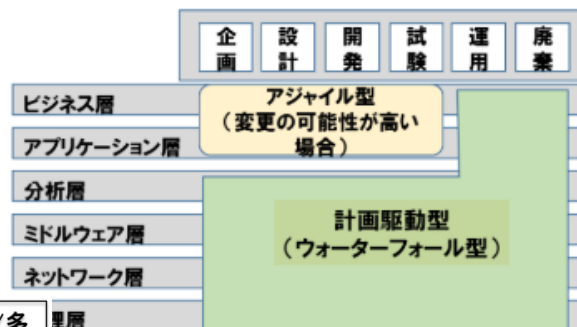
グローバル工場IoTプロジェクトの事例

それぞれのシステムの技術検証フェーズではアジャイル型、それ以降の本番実装および本稼働後の運用設計フェーズでは計画駆動型が使用されている。



IoTサービス開発における開発手法の一例

- 目的を達成するための開発手法は一律ではなく、またアジャイル型とウォーターフォール型を前述した3つの視点で組み合わせて使用する、ハイブリッドアプローチとなる場合が多いと考えられる。



エア・施設、センサー、ネットワーク機器が関連するIoTサービスアーキテクチャの視点も含めた多角的なハイブリッドアプローチの必要といえる。

企業課題

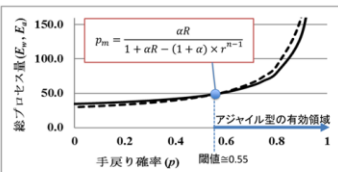
- プロジェクト成功率の停滞
- プロジェクト初期フェーズでの要求定義が困難

アジャイル型の課題

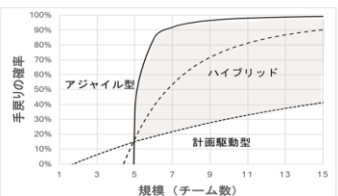
- 計画駆動型より工数増に至る傾向
- アジャイル型の採用基準が不明で、誤って使用されている可能性

マネジメント方法論

アジャイル型の有効領域



ハイブリッド型の有効領域



数理モデル(基礎/多変数)

$$E_a = (1 + a)(T + D + V) + (1 + a)(t_r + d_r + v_r) \times r^{T-1} \frac{P_{tr}}{1 - P_{tr}}$$

事例研究



日本情報経営学会第74回全国大会「IoTによる産業融合と創造情報経営」において優秀賞を受賞

博士論文「ITプロジェクトにおけるアジャイル型手法に関するマネジメント方法論の研究」慶応義塾大学大学院 学位記受領代表(2017年)

グローバルプロジェクトマネジメント・ ハンドブック



グローバルPM スタディ・グループ

グローバルプロジェクトに関するハンドブックを配布、研修可能です。

目指すべき姿:

20年以上のグローバル・プロジェクトマネジメント実績、および大学院博士研究を基礎としたプロジェクトマネジメント方法論を駆使し、

様々な事業価値の創出、さらには社会課題にアウトリーチするためのプロジェクトマネジメントに関する実行支援、研修、および研究開発サービスをご提供します

当社のミッションは、最新のプロジェクトマネジメント技術・方法論を通じ、

タク*: ありがとうがあふれる社会に貢献する

スフィア(球): グローバル/国際的な展望をもったつながりを創造する

スフィア: 革新的でつながりのあるソリューションを創造する

タク: 安心して託される集団に進化する

スウェーデン語でTackはありがとうの意味です。また、Tack(タク)は当社代表の英国大学院留学時にクラスメートがつけたニックネームで、当社名の由来の一部としています